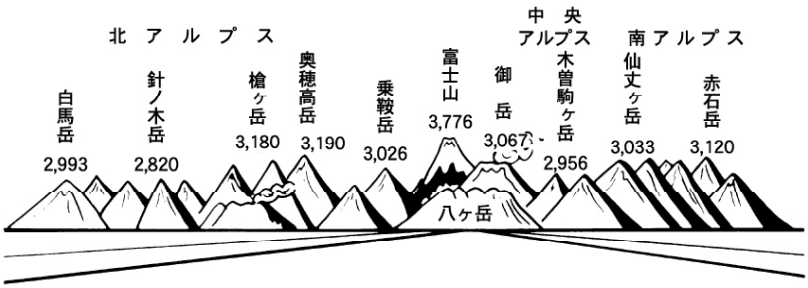
長野県(山岳)南北縦断面



第 45 号
平成21年12月

砂防ニュースレター"長野"

平成21年8月6～7日の豪雨において
約8,000㎥の土砂及び流木を捕捉しました

長野市戸隠　楠川砂防えん堤

目　次

第71回長野県治水砂防協会通常総会開催 …… 2
㈳全国治水砂防協会通常総会開催 …… 2
中村前会長退任挨拶、佐々木会長就任挨拶 …… 3
役員就任にあたって（新副会長）…… 4
役員就任にあたって（新副会長）…… 5
平成22年度　砂防学会「長野大会」ご案内 …… 5
薬師沢 登録有形文化財登録証プレート除幕式 …… 6
土砂災害危険箇所等の
緊急点検要領（長野県版）新策定 …… 6
砂防施設の効果事例 …… 8、9
砂防ボランティアだより …… 10、11
地附山トレッキングコースオープン …… 12

長野県治水砂防協会通常総会開催

平成21年８月７日、長野市内において、第71回通常総会が、多数のご来賓の方々をはじめ、県内市町村長並びに関係者の出席のもと、開催されました。

中村会長の挨拶に続き、森山国土交通省砂防部保全課長様、岡本(社)全国治水砂防協会理事長様、清沢長野県議会危機管建設委員長様、入江長野県建設部長にご祝辞をいただいた後、永年にわたり砂防事業に従事し、事業推進に尽力された平沢清氏、佐藤知章氏の２名を砂防事業功労者として表彰いたしました。

議事では、平成20年度事業報告・収支決算報告・平成21年度事業計画(案)・収支予算(案)について審議され、いずれも原案どおり可決されました。また、任期満了に伴う役員の改選が行われ、２年５ケ月にわたり会長を務められた信州新町長の中村靖氏に代わり、佐久穂町長の佐々木定男氏が会長に選出されました。副会長には、根羽村長の小木曽亮弌氏、小谷村長の小林三郎氏、大町市長の牛越徹氏、駒ヶ根市長の杉本幸治氏が選出されました。最後に、杉本副会長の朗読による決議(案)を満場一致で採択し、会議を終わりました。

総会に続いて、国土交通省砂防部の森山保全課長様から、「砂防事業の現状と課題」について、また、(社)全国治水砂防協会の岡本理事長様からは「農村匡救砂防事業その役割に学ぶ」と題し、有意義なご講演をいただきました。

※総会以降、支部長に異動がありました。

・長野支部長：松木重博氏（信濃町長）　／　犀川支部長職務代理者：飯森文治氏（麻績村長）

(社)全国治水砂防協会通常総会開催

平成21年５月21日、シェーンバッハ・サボーにおいて、(社)全国治水砂防協会第73回通常総会が多数の国会議員列席のもと盛大に開催されました。本県からは、中村会長をはじめ会員58名他約100名の皆様に出席いただきました。

総会では、綿貫会長の挨拶、来賓の祝辞に引き続き、平成20年度事業報告・収支決算報告・平成21年度事業計画(案)・収支予算(案)が原案どおり承認されました。

続いて、(社)全国治水砂防協会会長表彰が行われ、中原正純氏【前長野県治水砂防協会副会長（前駒ヶ根市長）】が表彰されました。

また、通常総会終了後、県協会では、講演会及び意見交換会を開催しました。この講演会は、砂防事業の理解を深めるため(社)全国治水砂防協会通常総会に併せて毎年行っているものです。今年は講師に中野砂防部長（当時）をお招きして「砂防行政について」と題して最新の状況や課題などを伺いました。

また、続く意見交換会では、国、県市町村の枠をこえて出席者の間で悍のない意見が盛んに交わされました。

『会長退任のあいさつ』

信州新町長
中村　靖

長野県治水砂防協会長を退任いたしました中村でございます。

若輩の私が、無事に会長の要職を務める事が出来ましたのも、ひとえに、会員の皆様をはじめ事務局皆様の多大なるご支援・ご協力のたまものと、あらためて心から敬意と感謝を申し上げる次第であります。この間、会員皆様方には砂防関係事業の促進にあたり、県選出国会議員をはじめ、国土交通省・財務省など、国の関係機関に対する要望活動を行うとともに、当協会の活動に積極的に参加していただくなか、その目的を果たすことが出来たものと考えております。

現在、国において公共事業の有り様が見直されており、これからも厳しい時代が続くものと存じます。議論に見られますように公共事業に採算性を求める意見もありますが、採算性を重視すれば切り捨てられる地域が必ず生じてまいります。公共事業に対するさまざま批判が出されておりますが、必要な公共事業は計画的に推進することが大切であり、そのためには予算の急激な変動は避けるべきであります。

特に砂防関係事業は、国土を保全し、国民の生命・財産を災害から守る、国の施策の基本であることは、言うまでもありません。四季折々の美しい自然に恵まれた長野県は、一方で地形が急峻、地質構造も複雑かつ脆弱であり、砂防関係事業は安全で安心して暮らせる地域づくりを実現する根幹的事業として、引き続き積極的に取り組まなければなりません。

「必ずやってくる災害」に対し、危険管理意識を常に共有する防災対策と治水事業の重要性・必要性を十分認識され、佐々木会長さんのもと、本県の砂防事業を引き続き強力に推進するとともに、長野県治水砂防協会発展のため、会員皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げまして、退任の挨拶とさせていただきます。ご協力誠にありがとうございました。

新　役　員　あ　い　さ　つ

会長就任あいさつ

佐久穂町長　佐々木　定男

長野県治水砂防協会長就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年秋のアメリカに端を発した世界同時経済不況、新型インフルエンザの蔓延、８月の衆議院議員総選挙に於いて、民主党の圧勝による政権交代と激動の年でありました。

また、国内の災害におきましても、山口県防府市をはじめ、豪雨による土砂災害が頻発し、多くの尊い人命が失われた年でもありました。

長野県は、全国４位の面積を持ち、3,000m級の山々をはじめ、急峻な地形と天竜川、木曽川、千曲川、犀川をはじめ、大河と中小河川が数多く流れ、又県内を中央構造線が走るという、不安定な地質を抱えている県であり、自然災害には、常に最大の注意を払っていなければなりません。

土砂災害で尊い人命が失われる度に、砂防関係施設整備や早期情報伝達の重要性が指摘されています。その中でも、最近度々災害時要援護者施設が災害に遭い、多くの人命が失われています。施設の建設場所が、土砂災害危険箇所にあったからだと言われますが、全国各地で危険な箇所に建設されています。施設に限らず、人家に於いても、もっと多くの人家が全く同様であり、５戸以上等の箇所を対象としても、砂防施設が整備されているのは、全体の20％に留まっており、未整備箇所の整備が待たれているわけであります。

固いコンクリートの構造物が、時として人の心に、信頼感と同時に、安全安心感とやすらぎを与えてく

れます。選挙の度に、公共事業が無駄なものの筆頭に挙げられます。平時であれば、ダムや堰堤のコンクリート構造物は、無駄に見えるかもしれませんが、台風や豪雨等の非常時に現場を見てもらえば、良くわかると思います。膨大な貯水量と大量の流木をくい止めているダム、激流を平準化し、土石の下流への流出を止めている堰堤、地方に住む住民にとって、かけがえのない安心安全の施設であるわけです。

現在、大変な財政難の中ではありますが、地域住民の生活に必要な施設については、きちんと要望してゆかねばなりません。土砂災害による犠牲者「ゼロ」を目指し、皆で頑張りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

役員就任にあたって

副会長　根羽村長　小木曽 亮 弍

この度、副会長を仰せつかることとなりました、下伊那支部長で根羽村長の小木曽亮弍であります。会長を補佐し、県治水砂防協会の発展に尽力してまいる所存でありますので、よろしくお願いします。

さて、ご承知のとおり近年は、世界各地で地球温暖化の影響によると思われる「ゲリラ豪雨」や「異常気象」による災害が多発し、その度に多くの尊い生命や財産が失われています。当県は、急峻な地形に加え、脆弱な地質など自然災害に見舞われやすい自然状況下にあります。当村では、平成12年に時間雨量100mm、連続雨量500mmという過去経験したことのない集中豪雨に見舞われ、村内いたる所で道路、耕地、河川等に未曽有の大被害を受けました。

こうした中にあって、平成２年に完成した砂防ダムによって流出した土砂がくい止められ、この流域にある11戸、36名の集落が守られました。まさに砂防ダムが地域住民の身体生命を守ったものでありました。こうした経験も踏まえ、関係各機関のご協力を頂きながら、自然との調和に配慮したハード事業の実施にあわせ、避難対策や人材育成等のソフト面の充実も図りながら、災害を最小限にとどめる努力が必要であると痛感しておるところであります。

昨今の政治情勢等は、公共事業に対する厳しい風当たりの中にありますが、地域の安全・安心を確保するために皆様と一緒になって、より一層の努力をしてまいりたいと存じますので、ご支援ご協力をお願い申し上げ、就任にあたっての挨拶と致します。

役員就任にあたって

副会長　小谷村長　小 林　三 郎

８月に開催されました通常総会におきまして、副会長を仰せつかりました小谷村長の小林三郎でございます。長野県治水砂防協会の発展のために会長を補佐し、微力ではありますが最善の努力をしてまいる所存でございますので、どうかよろしくお願い致します。

当村は糸魚川静岡構造線上に位置し、急峻な地形のうえに地質が脆弱であり、地すべりが発生しやすく、平成7年の豪雨災害をはじめ、過去幾度となく大きな災害を被ってきました。その都度皆様方には大変お世話になり、治山治水事業のおかげで被災個所も順調に復旧し、近年のゲリラ豪雨にも今のところは比較的大きな災害は少なく、治山治水事業の必要性・重要性を身にしみて感じている小谷村でございます。

また、県事業のみならず国直轄の砂防事業や治山事業も多く、地元や近隣市町村で組織する同盟会・協会とともに、事業の促進を要望しているところであります。

本年８月の衆議院の総選挙において民主党政権が誕生し、公共事業の見直しがニュースや新聞紙上で大きく扱われています。すでに「ダム建設の凍結」や「高速道路の凍結」といった公共事業の凍結が次々と発表され、砂防事業を取り巻く環境も非常に厳しい状況下にあります。

しかしながら地域住民が安心安全に暮らせるには、水害や土石流災害等の自然災害から生命・財産を守る根幹的な基盤整備事業は、単にそこに住む人々だけのことではなく、下流域や地域全体ひいては国土の保全として、大変重要な政策であります。

山紫水明な長野県の郷土を保全していくため今後も国・県に協力をしながら、予算の確保等砂防事業の促進になお一層の努力をしてまいりますので、皆様のご支援ご協力を切にお願い申し上げ就任の挨拶といたします。

役員就任にあたって

副会長　駒ヶ根市長　杉本　幸治

平成21年８月７日の第71回通常総会において、副会長に再任されました、杉本と申します。よろしくお願いいたします。

この７月17日にオープンしました、自然と人がおりなす青空博物館「駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム」の紹介をし、ごあいさつに替えさせていただきます。

「駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム」とは、中央アルプスの豊かな自然に育まれた駒ヶ根高原一帯の自然、風土、人々が築きあげた文化や郷土を守る砂防施設など、地域全体を野外展示物と見立てた青空博物館です。地域社会におけるこれら資源と、太田切川の砂防事業との関わりについて、地域住民、小・中学生、観光客などが、楽しく体験学習できる場を提供するものです。

この「駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム」を開設するにあっては、昨年３月に、国土交通省天竜川上流河川事務所、宮田村、駒ヶ根市、駒ヶ根市観光協会、宮田村観光協会などで、「駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム構想協議会」を立ち上げて構想を練り、開設に至りました。

フィールドミュージアムは、駒ヶ根高原の太田切川を中心に両岸一帯に広がり、黒川沿いの遊歩道「こもれ陽の径」や、太田切川に横たわる約166トンもある「河床大礫」、太田切川に架かる吊り橋の「こまくさ橋」、中央アルプスから運び出された七つの巨石の「七名石」などの野外展示物を、ガイドマップ片手に散策します。また、土地の成り立ちや自然災害にまつわるお話を聞くことができるガイドツアーに参加することもできます。

詳しくは、駒ヶ根観光協会（0265－81－7700：営業時間　９時～18時）までお問い合わせいただくか、下記へアクセスし、ホームページをご覧ください。

ぜひ、「もうひとつの駒ヶ根高原を巡る旅」にご参加いただき、砂防施設などの歴史を再認識いただきたいと思っています。

今後も皆様方のご指導、ご鞭撻をお願いいたしまして、役員就任のあいさつとさせていただきます。

(http://field-museum.kankou-komagane.com/)

平成22年度　砂防学会「長野大会」開催のご案内

平成22年度(社)砂防学会通常総会及び研究発表会が長野県で開催されます。

開催概要

日　時：平成22年５月26日（水）：午前 総会・講演会、午後 研究発表会
５月27日（木）：研究発表会
５月28日（金）：現地見学会
会　場：長野市　若里市民文化ホール
主催者：砂防学会「長野大会」実行委員会（委員長：信州大学農学部教授　平松晋也）

砂防学会は、毎年800人近い砂防を研究する皆さんが全国から集まります。来年の平成22年度は、長野市で開催されることが決定しました。県内の皆様も大勢参加いただき、最新の砂防の研究成果に触れていただければ幸いです。

（写真：砂防学会広島大会で、次回開催地の挨拶をする長井砂防課長（右端は平松実行委員長））

薬師沢 登録有形文化財登録証プレート除幕式

平成21年８月25日、小川村稲丘東地区の薬師沢において、薬師沢石張水路工の登録有形文化財登録証プレートの除幕式が開催されました。

除幕式前日には、長野県砂防ボランティア協会、村、砂防惣代の皆さんの他、地元稲丘東区の皆さんにより現地の草刈を実施しました。51名のお力により、総延長約１㎞の薬師沢石張水路工周辺は見違えるように美しくなりました。

（ボランティアによる施設周辺の草刈り）

（地元の皆さんとプレートを囲んで）

除幕式は、地元、村・県関係者、砂防ボランティアの皆さんなど約70名が出席して、開催されました。式典では大日向小川村長と長井参事兼砂防課長など来賓挨拶の後、プレートの除幕が行われ、真新しい石碑の姿がお披露目されました。

（除幕式の様子）

【プレートについて】

＊プレートは渓流別に４枚

（薬師沢、己り地沢、滝の下沢、富吉沢）

大きさ　：　30cm×21cm

材　質　：　真鍮

その他　：　プレートの台座石の一つは明治19年当時使用されたと思われる石を沢から掘り出し利用しました。また、渓流名板も合わせて設置しました。

【登録をきっかけに地域活性化】

薬師沢石張水路工は、地域の生活基盤である農地を地すべり災害から守るため、地元の皆さんが明治19年に砂防惣代という組織を立ち上げ、内務省に請願、施工されたもので、地元の生活に密着した施設です。以後120年余、砂防惣代を中心にした地元の手で維持管理されてきました。

今後は、地域の財産である石張水路工を活用して地域活性化を図ることが期待されます。この11月25日には、トヨタ財団の御協力もあり、地元有志の皆さんで桜の木を植えて頂きました。登録有形文化財の登録はそれらの活動の大きな原動力となっています。

（地域の発展を願って、参加者で記念撮影）